

第21期 国立市社会教育委員の会（第5回定例会）会議要旨

平成27年9月29日（火）

[参加者] 柳田、太田、坂上、間瀬、田中、高坂、中野、倉持

[事務局] 津田、井田、藤田

柳田議長 前は勝手に申し上げて欠席させていただきましたが、会議の内容につきましては議事録を通して確認させていただきました。太田先生におまともいただきまして、ありがとうございました。

それでは第5回の定例会を始めたいと思います。

まず、本日の資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局 では、資料の確認をさせていただきます。

まず第5回定例会次第と書かれております1枚のもの。第21期国立市社会教育委員会第5回定例会資料、近隣市の生涯学習計画と皆様からお出しいただきましたシートをまとめた全員分のもの。それと武蔵野市と稲城市と町田市の生涯学習計画の冊子です。その他としまして前回の議事録と公民館日より、図書室月報、これは次第のほうでは書き漏れてしまったのですが、東京の地域教育です。

資料は以上になりますが、何か不足等がある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

柳田議長 ありがとうございます。

それでは本日の会議の内容ですが、「多摩地域の生涯学習計画について」ということで委員発表となっています。前回、早い時期に生涯学習計画のイメージをつかむことを目的に他市の計画から、武蔵野市、町田市、稲城市、この3市を選んで、それぞれの委員の皆様が分担して発表するという事になっております。このことを踏まえて、今後の議論の方向性などを考えていきたいと思っております。

それでは発表の順番をどのようにいたしましょうか。今日の資料の一番後ろにA、B、Cと武蔵野市、町田市、稲城市とありますが、Aから順番でよろしいでしょうか。記載してある委員の皆様の順番ということで、本日、黒田委員はお休みということで。

事務局 事務局から欠席者については簡単にご紹介します。事務局から簡単に説明させていただければと思います。

1ページ目、黒田委員のものですが、武蔵野市の学習計画についてということで、1番、担当市の生涯学習計画の特徴、1つ目の○では、生涯学習計画の範囲を「社会教育」「家庭教育」「学校教育」「民間の教育活動」に限定していると。2つ目の○では、諸計画との関連を時系列に明示していると。3つ目の○では、策定の手順を明示し、計画策定過程がわかりやすいと。4つ目の○では、進行管理につきまして管理者・内容・報告について明確に示していると。5つ目の○では、生涯学習の課題を明確に示している。またその課題に対する方策を重点施策として示し、課題改善・解決の策を明示している。6個目の○としまして、施策が系統立っていることがよくわかる。7つ目の○としまして、基本施策の概要を1つ1つ示し、施策体系図の基本施策を詳細に説明しているということで特徴を挙げられています。

2番の感想としまして、こちらは読ませていただきますが、1つ目、具体的事業まで網羅された生涯学習計画で素晴らしい。ただし、定期的に改訂す

ることを考えるところまで示すのがよいか、検討は必要かと考える。2つ目の○としまして、生涯学習計画における課題6項目と、その改善・解決策として重点施策が正対して示されていてよい。3つ目、今後、国立市の生涯学習計画策定の課題を検討する際には、武蔵野市の課題にはなかった少子化・高齢化・一人家庭への対応などの検討も必要であると感じる。4つ目、学校教育と地域の連携についての施策が示されていたが、加えて武蔵野市の基本理念の「ともに学び、つなぎあう、ひと・まち・文化」を借りれば、「つなぎあうひと」づくりに照らし、まちづくりの観点から「地域とのつながり」を焦点にした基本施策が必要であると感じた。最後の5つ目、施策体系図の基本施策や施策概要の事業例には施策のイメージできるものとイメージしにくいものが混在しているように感じた。そういうことで感想をおっしゃっています。以上になります。

柳田議長 ありがとうございます。
それでは間瀬委員、よろしく申し上げます。

間瀬委員 私は、トータル5ページにわたってまとめてまいりました。

まず個人として、生涯学習計画とはどのような構成になっているか。押さえておくべき項目は何なのかを、今回読ませていただいて大変勉強になりました。武蔵野市は、ほかの2つの市のも読みましたが、特に構成が整理されているという面ではよくできているのではないかなと思いました。

それで2～5ページの部分の項目を見ていただこうと思います。まずは最初に生涯学習の定義、そして理念が基本的なこととして押さえられているということです。これは中教審の答申とか改正教育基本法にもとづいた定義だったり、理念だったりします。それを書いた上で、まず計画の範囲ですね。生涯学習計画の範囲が理論上の生涯学習と計画上の生涯学習に分かれています。ちょうど太い線で、黒縁になっている部分が計画上の生涯学習であって、その左側に理論上と書いたと思うのですが、その全部を扱うわけではなくて、計画上、この部分を扱いますよとなっています。さらに言えば、計画上の生涯学習の中でも例えば学校教育に関するものに関しては、武蔵野市学校教育計画という別の計画があります。なので、その部分はそちらに任せますよ。一応、計画上の生涯学習に入る部分であっても、生涯学習計画に入れる部分と学校の教育計画に入れる部分の中でも分かれていますよということが書いてあります。これでまず計画の範囲が、生涯学習でどこまで扱うのだということが明確になっている部分です。

続きまして3ページの上、計画の位置づけです。これは過去に私は事務局にも問うてきましたが、一体、生涯学習計画はほかの計画の中でどの位置にあるのかについても、武蔵野市はしっかりと図示でわかるようになっていきます。簡単に言うと、いろいろな計画がある中で親子関係、どっちが上でどっちが下になるのかと。それと並行関係ですね。並ぶのかということが、これを見ていただくと、学校教育計画と生涯学習計画が並んでいて、その下にスポーツ振興計画や図書館の基本計画が並んでいますという感じで、どういふふうに計画が関係しているのかが目に見えてわかるようになっているのも特徴かと思います。これをちゃんと図にして載せているところがポイントかと思います。

次に計画の期間ですね。これはざっと言いますと10年間となっておりますよということです。

その下、3ページの下と4ページの頭がワンセットなのですが、現状と課題というやつです。特に生涯学習からしての現状と課題が載っています。こ

の現状の部分は、ここでは省略してあるのですが、実際に何が書かれているかということ、これまで武蔵野市が生涯学習とか社会教育に手を入れ始めてから今の今までの歴史を非常にチャプターというか、段落ごとに分けていて、簡単に読みながら、これまでの生涯学習がどういうふうに展開してきたのか、施策が展開してきたのかがわかるようになっていきます。その上で4ページの上ですが、課題が今現在、どんなことに課題があるのかが6つの洗い出しがされているということで、読みませんが、6つの課題が出てきていますよとなります。

その次からがポイントですね。では、武蔵野市の生涯学習をどうしていくのだという内容です。まず基本理念を立てています。「ともに学び、つながりあうひと・まち・文化」という基本理念を立てています。

その下に施策体系で6つの基本目標と。施策の体系とは、今言った「ともに学び、つながりあうひと・まち・文化」という1つの理念があって、これも読みませんが、その下に6つの基本目標があって、さらに施策の考え方、基本施策という形で、右の施策体系図を見てもらうと、1つの理念があって6つの目標があってと枝葉が見えてくると思いますが。この特徴としては、6つの基本目標も適宜にばらばらにあるのではなくて、右側に基本目標の関係図が書いてあると思いますが、この6つの目標自体、ちゃんと構成されているのです。基盤があったり、将来性があったり、4つの学びの段階があったりということになっていて、ばらばらの基本目標ではないというところですね。

では、その下、重点施策です。この重点施策とは、一番上の6つの課題に対して、すべてそれに逐一对応している形で、こういうことで6つの課題があるので対応していかなければいけないということで、基本施策のうち、その課題に対応する施策を6つ挙げていると。正確に言うと5つで、プラス1つは生涯学習計画そのものが課題だったということなので、そうになっている次第です。

それで最後に5ページ目に施策体系図が載っているということで、ここあたりを押さえておけば、あとの細かい基本施策の内容に関してはそれぞれ考えていくことだと思うのですが、国立市の社会教育委員会で求められている部分は、大体、この4ページにわたる部分を押さえていくことが大事なのかなと思います。

では、次ページを見ていただいて、今言ったことの繰り返しになりますので、読んでいきますが。

生涯学習そのものの定義・理念については、中教審答申や改正教育基本法にもとづいたものを用いて一般性を保証するとともに、武蔵野市の生涯学習計画の基本理念を「ともに学び、つながりあうひと・まち・文化」というものをみずから設定することで独自性・オリジナリティーも獲得しているということです。そして計画の範囲については、先ほど話したとおり、論理上の生涯学習と計画上の生涯学習に分けていて、しかも、その計画上の生涯学習に含まれる分野においても、既存の計画がある場合はそれは省く、委ねる形になっています。計画の位置づけについても、各計画の関係図をつくって、わかりやすく図示しています。これまで過去から現在までの生涯学習の歴史をちゃんと整理して、その上で今一体、どんな課題があるかを6つ洗い出しをしています。施策体系は1つの理念、6つの基本目標、施策の考え方、基本施策（重点施策を含む）から成っており、その基本目標から出発して、すべての体系、施策が。さらに6つの基本目標についてはばらばらではなくて、それも体系化されており、一目瞭然で図示されているということです。重点施策の選び方は、洗い出された6つの課題に逐一对応していること

になります。

総括です。よくあるのが、既存の個別の施策・事業、今やっている生涯学習関連の事業を総花的に整理して、カテゴライズしたりして、まとめ上げるのがよくあると思うのです。それは下流から上流へまとめあげるやり方ですが、そうではなくて、まず理念的な部分とか、6つの基本目標を設定し、それらの目標につながる基本施策を挙げていき、つまり上から下に展開する策定方法によって、まず骨格をはっきりさせることで、骨格のしっかりした計画ができています。その骨格に対して、今現在やられている個別の施策・事業によって、ここの部分は既にやられていますよというのとまだやられていないよという部分が判別できるようになっています。そういうことで、そのまだやられていない部分については、これから新たに個別の施策・事業を設ける必要があることが認識できるようになっているということです。

ちょっと長くなってしまいましたが、以上になります。

柳田議長 ありがとうございます。

それでは、中野委員、よろしくお願いします。

中野委員 私も武蔵野市なのですが、読み上げます。

武蔵野市の生涯学習計画の「はじめに」の部分で、平成18年の教育基本法改正により、生涯学習理念が条文化されたことを示されています。当該市が、そのことを受け、市民に対して、市民みずからの意志にもとづいて学ぶ機会を保障することとした。またさらに現在実施されている事業を「学び」の視点で整理し、市民に提示していると。「いつまでも健康で心豊かに暮らし続けたいという人々の普遍的な望みに応えるため」という学ぶことの目的を示していると。よって、計画の策定の背景に教育基本法の改正を示し、その方向性と計画を示している。計画の範囲は、家庭、学校、社会、民間とすべての学習機会を範囲としている。学校については、先ほど間瀬委員から話もあったように学校は別ということなのですが。

現状と課題を見ますと、当該市のコミュニティ構想により、コミュニティ地域としての分割とコミュニティセンター開館により、さまざまな学習の場を提供していることがわかる。さらに、その連携機能を可能とする武蔵野プレイスを開設したことが大きな特徴となっている。課題として挙げられている生涯学習事業の全体像をどのように市民に示していくのか。その情報提供の方法、さらにコミュニティそのものの充実と学習活動の発展などが課題となっている。また多様な事業主体との関係で、行政のみによるサービスの拡大を図ることは非効率的かつ困難であるとの認識に立っている。

基本理念を実現するための施策体系を4段階プラス生涯学習社会の強化、未来への学びの継承を加え、6つの基本目標としているところも特徴的な体系となっている。重点施策として、基本目標3「学びの成果の共有」以降に指定し、武蔵野プレイスを生涯学習の拠点とすることを挙げている。そういったところだと思います。

感想としましては、生涯学習計画を策定することは教育基本法の改正、社会教育法の改正などを受け、市としての生涯学習の体系化を策定するものと考えますが、生涯学習の目的を確認することが大事だと思っています。平成18年の改正法により、生涯学習理念の定義に、国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるようにとあります。その定義を目的とし、教育の機会を充実させるわけですが、手段としての計画は、より効率のよいものでなければならぬと考えています。個人的な話になりますが、私は仕事として生産業にずっと携わってきました。そして常に生産性の向上

がテーマとなり、合理化を推進してきました。民間企業では投資することでどのようにお金を生んでいくのかを考えるのが仕事です。税金は市民サービスとして使用するにあたって、常にその効率を念頭に置く必要があると思っています。

武蔵野市の場合、市民の構成に大きな特徴があり、市はそのことをよく承知していることから、コミュニティ施策の充実を図ってきたものと思われます。しかしながら、自立型のコミュニティである自治会・町内会と違い、政策的につくられたコミュニティに集う人々は同じ目的を持った人しか集まることはできないと思います。例えばコンサートにファンが集まるようなイメージです。一方で自治会などは地域の活性化を図る目的をもって企画するわけですから、同じ人がさまざまな企画をします。幅広く人々が集まりやすくなるように企画段階での努力をします。そのことによって学習機会の幅が広がり、格段に参加者が増えることとなります。地域の安全と安心、自助・共助の精神が育まれ、結果として地域の社会性を高めるところに特徴があります。国立市には70地域程度の自治会があり、そのうち26団体が自主防災組織を持っています。自立した組織には学習機会を醸成する基盤があると言えます。既にできているこの基盤をどのように支援するのかを検討することは市民サービスの効率化を図ることにつながると思われます。国立市の現状実態を見ますと、武蔵野市とは逆にコミュニティ構想が乏しく、福祉センターなども決して使い勝手がよいとは言えない実態状況があります。前述のように70地域程度に広がる自治会組織も、組織率は全体的に見ますと決して高いとは言えないと思います。

武蔵野市のように自治会組織がない地域において、コミュニティ構想が充実していることは高い評価を受けるものと思いますが、教育の機会を行政が提供することは非常に効率が悪く、これも課題として挙げられていますが、市民サービスのあり方を慎重に吟味する必要があるように感じます。武蔵野市のコミュニティセンターは非常に使い勝手がいいように聞いていますが、それでも、その使用が任意の団体であったり、行政のサービスであったりするわけですので、限られた人へのサービスになっているのが現状でしょう。武蔵野プレイスにおいても同じことが言えると思います。私の親しい武蔵野市の人でも、その存在さえ知らない人が結構いました。いかに限られた人だけへのサービスであるのかがうかがえると思います。

国立市、また他市のアンケートを見ましても、生涯教育に関する回答率、関心度は相当低くなっております。関心度を高めるためには、学校教育を受けている時代にどのように関わっていくかも大きなポイントになると思います。武蔵野プレイスにおきましても、青少年の居場所づくりをすることで気軽に生涯学習に取り組める環境を提供することが盛り込まれています。あり余るエネルギーに満ちあふれた青春時代に学習機会を与えることは生涯学習へのきっかけづくりにとどまらず、人生の土台を築いていくものと思われます。学校教育への支援とは違った青少年への生涯学習への支援を模索したいものと思います。以上です。

柳田議長 ありがとうございます。

続きまして、倉持委員、お願いします。

倉持委員 はい。皆様のに比べて大変短くて恥ずかしいのですが、言いわけをするわけではないのですが、武蔵野市生涯学習計画の策定に携わったものですから、自作自演みたいな感じがして、分析する目が曇ってしまうみたいなところはありました。だから、あまり課題が出せなかったところは反省なのです。

が、他市のもざっとなのですが、町田と稲城のものを見まして、事務局で大変特徴的な、違いがわかりやすいものを3つ選んでくださったのだなと思いました。

比較しながら読んだこともあるのですが、他の2市と比べて武蔵野市ならではの生涯学習をめぐる政策、他の委員からもお話がありましたように経緯や現状・課題を丁寧にじっくり分析するというよりはコンパクトにまとめることによって、あるいは具体的な施設名とか事業名を出すことによって、わかりやすく示しているのではないかと思いました。稲城市さんなんかは、かなり詳しく具体的に丁寧に書いてあるのですが、その分、分量も長いのですが、武蔵野市なんかは写真やデータなんかを示しながら、わかりやすさを重視しているような気がします。

それから、これはやや批判的な観点かもしれませんが、「ともに学び、つながりあうひと・まち・文化」というキャッチフレーズというか、理念がついていますが、何と言っても稲城が相当個性的ですので稲城と比べるというわけではないのですが、他の社会教育委員の会議のときに事務局が多摩地域のキャッチフレーズを一覧表にまとめてくれたときがあって、それを見たときがあるのですが、なかなかそれは特徴があってももしろいのですが、何か似たようなものがもう一市あるのですね。「まち」とか「文化」というのは武蔵野市が都市型文化ということに誇りを持っているので、それは特徴的みたいなのですが、やや似たようなキャッチフレーズになりやすいところはあるのかなとは思いました。

それから、施策体系も先ほどからありますように6つの基本目標が掲げられているのですが、この言葉の選び方だとか、表現のあり方がお役所的でないとか、堅苦しくない表現に比較的なっていて、短い言葉でわかりやすい表現になっているのではないかなと思いました。この6つにするか、4つにするか、5つにするかみたいな分類の仕方は各市さまざまだとは思いますが、やや特徴的なものとして、市民文化の発信というのは、先ほど言ったように文化ということに武蔵野市はアイデンティティーを置いているので、その部分とか、あと、未来に学びを継承することは、ほかの市から見ると少し特徴的な分類の仕方かなと思いました。

それから、扇型の図、これは図の作成過程を知っているので、これは自己評価を高めに設定しているかもしれませんが、ケーキみたいに支える部分が基盤で、だんだん学びが発展していくようにということで扇型の図をつくっているのですが、相関関係がわかりやすく、それもパッと見てわかりやすいというようにつくられているように思っています。

それから、このあたりはいろいろな市によって考え方が違って、まさに生涯学習計画の範囲をどうするかにかかわるのですが、武蔵野市の場合は、いわゆる教育委員会の中の生涯学習の担当部局の担当事業の範囲だけではなくて、学びにかかわるのであれば何でも取り入れている、位置づけている、範囲に入っているところは特徴かなと思いましたし、またお話があったように、何なら行政だけではなくて、大学セクターみたいな部分の事業も入っているのも特徴かなと思いました。

それから、中身のところで、各基本施策について事業名なんかが出てくるころは一覧表になって表が入っているのですが、その部分に新規事業については少し目立つように表現されていて、何が今まである事業で何がこれからの事業が少しわかりやすいのかなと思いました。

それから、これもほかの委員さんと重なりますが、重点施策が5つ挙げられています。現状と課題にもとづいた具体的な重点施策ということでは一貫性があると思いますし、実際にプロポーザル事業制度という生涯学習の市

民選考プロポーザル制度というのは、この計画のもとで新規に立ち上げた事業で、社会教育委員の会議が審査委員になるなんていう仕組みを、これをきっかけにつくっているもので、ただ紙に書いただけではないところなんかは具体的かなと思いました。

総括として、完全に私の偏見ですが、稲城市に比べると個性はやや控えめ、町田市に比べると事業計画——町田市はかなり具体的に方向性みたいなものを書かれているので——の具体性にはやや欠けると思いましたが、わかりやすさとか、市民とか民間とか、いろいろなところと手を取り合っ一緒に計画を実現していこうという、行政単体ではないという方向性は感じました。

感想のところは他市と比べてというところで、最初の宿題の意図とはずれられるかもしれませんが、自分の担当でない稲城市と町田市について感想をそこに載せてあるところです。以上です。

柳田議長 ありがとうございます。

ただいま武蔵野市が終わりましたが、このまま続けて町田市に行ってよろしいですか。それでは町田市で、坂上委員、お願いします。

坂上委員 町田市は多分、今回取り上げられた3市の中で市域が一番大きいのではないかと思います。個人的なことを申しますと、私は町田市でも一番南の端に住んでいますので、あまり行政サービスの実感を身近に感じることがないとは言いませんが、比較的少ないところに住んでいるわけです。

それで町田市の生涯学習計画でございますが、見ると、わりあい最近にできていまして、2014年3月、だから多分、この町田市の計画も他市の計画を参考にされたのではないかとということをお聞きしながら全体として感じました。以下、計画の背景、位置づけ、これも私は簡単にしかまとめられなかったのですが。

背景として、生活環境の変化、超高齢社会、環境問題、情報化社会に生き抜く力を生涯学習を通じてつけましようということで、ちょっと間を飛ばしますが、そこで基本理念ですね。「市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができる社会」を実現しようというのが基本的な状況から結論の説明になっているということかと思えます。このあたりのいわゆる理念部分については、わりあいさくさくと書いてあって、好感が持てたところがございます。定義とか、形態とか、いろいろ言葉について押さえた上で、位置づけとしては、町田全体の「まちだ未来プラン」というものがあって、その下に町田市の教育プラン、これは学校教育なんかも含む全体の教育プランがございまして、その下に生涯学習推進計画が策定されたということになっています。その下にさらに文化財活用・図書館事業を独立したプランとして設けているようであります。

体系としては、武蔵野市とやはり同じような表のつくり方はしているわけですが、特に①が一番重要だと思うのですが、生涯学習の一層の拡充ということで、特に若年層——若年層といっても、子どもというよりは現役で社会で活躍されているとか、大学生以上の方々に、その年代から参加を促進していこうと。あとは関連機関との連携、情報提供、学習成果発揮の場の確保、市民団体活動の支援をうたっています。それから、図書館の利便性の向上と。それから、文化資源の活用は、あまりほかで、特にこれを項目に立てているところはないという印象だったのですが、市域が広いこともあって、あっちこっちで発掘調査などもあって、それについて配慮しているということかと思えます。それを具体的にどう実現するかということで、重点施策が述べられています。

以下、感想ですが、先ほども申し上げましたが、わりあい理想的なところはわかりやすい言葉で書かれていて私はいいなと思いました。それから、先ほどもご指摘がありました、学校教育とかスポーツを今回は除外しているということで、わりあい絞った形で書いてあるのは私としては支持できると。それから、個別の施策について数値目標まで示されている。例えば何人集まっていたかことを目標にするイベントについて、その数を増やしていくとか、現行のものについては、もう何%、参加者を増やすというようなことは後から検証するときに非常に有力な手法かなと。ただ、数値もわりあい操作しようとするならば可能な部分があると思いますので、例えば最初から集客目標を少し低めに設定しておいて、十分集まりましたというのはわりあい簡単にできることなので、そこはこれまでの実績とかから厳しく、本当は見ていく部分もあるのではないかとということです。あと、細かく読んだわけでもないのですが、施策の相当部分をいわゆるインターネットサービスの充実で、情報発信とか、そのためのデータの整備をすることで達成しようということは、これは大切なことなのですが、なかなか実際にはデジタルデバインドといえますか、やはり70代後半以降の方々がたくさんいらっしゃる社会では、これだけをやっているのかというのはなかなか疑問に感じた部分です。後の方も指摘されているのですが、『生涯学習NAVI』という関連の事業をやっているものをまとめた冊子を出されているのですが、寡聞にして、10%前後しか見ていないと。これをちゃんとここに書いてあるのは偉いと思うのですが、私も見たことはないし、そうすると、どうやってアクセスするのよというのは本当に問われる部分かなと感じています。

あとは、どうしても基本的にカテゴライズを理念から分けるにしても、実際にやっていることから分けるにしても、私なんかは、ターゲットという言葉がいいのでしょうか、享受者と書きましたが、どういう人にはどういうサービスが必要かという視点での分類がもう少しあったらよかったですのではないかと。あるいはもう一つの分類手法を読みながら考えてきたのですが、生涯学習について、ある程度はこれは書いている部分もあるのですが、きっかけの提供とか、持続を後押しする、あるいは成果の確認・披露ですね。やはり学んでいるだけではなくて、それをどこかで人に見せたい、評価されたいということが、次の生涯学習を生む原動力になるかと思いますので、そういう意味での施策の分類があればもう少しわかりやすくなるのではないかと。それから、民間活動そのものを応援するところまでは行ってないと。これも言い方が何なのですが、例えば私どものNHK学園でも生涯学習に関する事業なんかをやっているわけですが、そういうところに参加したいという方についてのサポートが、これからどういうふうになされていくかということについて、町田市の場合はあまり言及されていなかったように思います。最後にちょっと触れましたが、文化資源の活用と。実際に個々の遺跡から出てきた土器とかもたくさんあるのですが、それがあまり、言葉を選んで言わないといけないのですが、個々の生涯学習にどこまで寄与するかと。遺跡の発掘なり、その保存・活用はやらなければいけないのですが、こういう計画の中でことさらに触れるほどのものなのかなというのは、率直なところ感想として持ちました。私からは以上でございます。

柳田議長 ありがとうございます。

続きまして、田中委員、よろしく申し上げます。

田中委員 先ほど委員の方もおっしゃっていましたが、非常に具体的な生涯学習計画がかなり議論されていて、よい印象を持ちました。

ここでは策定を前に市民アンケートを実施されていることが最初にありまして、今、委員がおっしゃいましたが、「年に1回以上利用した」の項目では一般の生涯学習センターが9.2%しか利用されていないとか、図書館が38%しか利用されていないとか、そういうことで少しびっくりしました。というのは、町田市は42万人の、国立市の人口からいくと6倍の規模の大きな市ですよ。そういうのでなかなか情報が行き届かないところがあるのかもしれませんが。年代別では最も多いという点において、生涯学習センターは70歳以上の方が18.8%ですし、図書館においては40歳代が47.1%の利用をしています。それから今おっしゃいましたが、生涯学習センター発行の『生涯学習NAVI』という立派な情報冊子があるのですが、それを読んでいる市民がわずか10.3%というのもアンケートには出ていましたので、それもびっくりいたしました。

行政が主催する講座や講演会の事業への参加も高齢者層の割合が高く、若者世代をフォローできていないと。そういうことで、「情報発信力の向上」や「市民のライフステージに応じた事業の展開」がまずうたわれているということがありました。なので、ICTにこだわっていく道筋がここでできていると思うのですが。

町田市の認識では、「生涯学習とは個人の生活を充実させることだけではなく、地域社会全体を豊かにする役割を果たす」と。「市民相互の学び合いを促進する」とともに、ここは印象的だったのですが、「学んだ成果を地域に還元できる仕組みを構築し、市民の生涯学習がよりよい地域社会づくりにつながるよう支援を行う」ということがうたわれているので、これはいいなと思いました。つまり、行政の役割は市民の生涯学習への関心を高めることとか、学習しやすい環境をつくることに加えて、「学習活動を地域や社会全般の中で生じる課題の解決につなげていく」と明記しているところがとても特徴的だと思ったのです。

そこで予算を見ていきますと、先ほどの情報発信力の向上につながる重点施策の中で、情報発信ポータルサイト構築に630万円とか、さらに重点施策の中で、地域の課題解決に取り組んでいる団体が活動を円滑に行うことができるように知識や情報を提供するなどの支援という項目で予算がつけられているのです。ここには書かなかったのですが、生涯学習ボランティアバンクというものを策定されていて、これは市民がお互いに学べるような人材バンク的なものをつくるのがうたわれておりました。さらに拠点施設の整備を進めていくとういことで、市民センターを建て替えるときに、図書館・コミュニティ機能をつけるとういことで7億円という予算計上がされていると。大きな町だからうらやましいなと思った次第です。

具体的なことを網羅していませんが、感想で申し上げますと、生涯学習をすることと地域づくりを担うボランティア、市民活動をリンクするという視点が私にとってはとてもうれしいことでもあるし、ここではっきり書かれていたので、これがもっと展開されると本当にいいなと思ったのですが。それに対しては学習成果を生かす仕組みの充実という項目もあるわけなのですが、そのために提案されている施策は実は体験講座スキルアップ予算というのが10万円だけで、課題を抽出して、それに対してこういうことがあるというところはすごく立派なのですが、それに対する戦略としての施策がなんとも言えない規模でした。先ほど坂上委員がおっしゃいましたが、何か数値のマジックというか、目標を低めにしておく、それはいざというときにやらなくてもいいような感じが少しそういうところに読みとれるのでございました。先ほど言いました10%にしか読まれていない冊子『NAVI』もどうするのかというところの施策も「設置場所を増加する」と書いてあったの

で、これもとても効果的な戦略だとは思いませんでした。ただ、ここで申し上げたいのは、その冊子は担当課がどこだろうと、生涯学習センターであろうと市内の大学であろうと、その学習情報がまとまっているのです。国立の場合は前にも申し上げましたが、オアシスですとか、公民館だよりとか、市報でばらばらになっているのですが、この『NAVI』はそれを全部網羅しているところだけはとてもいいなと思いました。

町田市が掲げる情報発信力の向上は大きな重点施策の1つなのですが、それは国立市にとっても同じ重点項目だと思っています。ポータルサイトは今ありませんし、ポータルサイトづくりはもちろんです。国立の場合はかなめとなる大きな施設がないので、生涯学習に係る関係機関だけではなく、活発な市民活動によって提供されているいろいろな学習機会ですとか、自分の学んだことを発揮できる現場のこととか、あとはニーズに応じて利用できる市内各施設の詳細情報なども今はないので、その辺はすぐにでも欲しいところだなという感想を持ちました。以上です。

柳田議長 ありがとうございます。では続きまして、私、柳田です。

既に坂上委員と田中委員がお話しされているのですが、私は2ページになってしましまして、中身を切り出した形になっていますので、このまま読ませていただきます。

まず計画の背景と目的ということなのですが、町田市の教育委員会の教育目標・基本方針に沿って進める教育施策をまとめた町田市教育プランを策定以降、社会や経済の状況変化に伴って、市民や地域が抱える課題も多様化していると。そこで教育行政に求められる役割も変化したということです。そのことを踏まえて、2014年度から5カ年を計画期間とする新たな教育プランを作成したということです。この町田市生涯学習推進計画は、新たな教育プランにもとづく生涯学習施策を計画的に、かつ着実に展開することを目的に策定されたということです。

計画の位置づけと期間ですが、教育プランで定める生涯学習施策（基本方針4）を具現化するためのアクションプランであり、2018年までの5年間を計画期間としております。

町田市における生涯学習の課題ですが、大きく3つ出しているのですが、1つ目は「あらゆる年代への学習機会の充実」ということで、行政が主催する講座等への参加者は高齢者層の割合が非常に高いということですが、特に若年層の参加が少ないということ、その理由としてということなのですが、生涯学習に関する情報が十分に行き届いていないと。実施事業が各世代のニーズに対応しきれていないということ、どのようにすればいいのかということ、情報発信力の向上や市民のライフステージに応じた事業の展開が必要ということになっております。

2点目は「多様な学習への支援の充実」ということで、現在、学習活動で生じるさまざまな問題に対する学習相談への対応や知識や技能を地域で生かす仕組みづくりなどが十分でないということが課題となっていると。そういうことで、一人一人の活動内容や学習テーマ、進捗状況などに応じた多方面からの支援が必要であるということです。

3点目は「市民が学習しやすい環境の整備」ということで、気軽に学習できる施設等の整備を含めて、施設の利便性を高めることが求められることと、施設や事業の検証を継続的にしていくことや、市民のニーズや社会の変化に対応した学習環境の提供が必要であるということとされております。

計画の基本的な考え方なのですが、生涯学習推進の方向ですが、2つに分けられています。1つ目は「市民生活の側面から見た生涯学習への支援」と

ということで、そこに記載したとおりでございます。もう一つが「地域社会の側面から見た生涯学習への支援」ということで大きく2つに方向づけております。

基本目標ですが、これは先ほども出てきましたが、市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができる社会を目指しますということになっています。

施策の体系ですが、まず基本目標を設定して、基本プランの施策内容を具現化するための4つの基本施策、12の個別施策、49の取組、93の実施事業ということです。重点プランで定めた3つの重点課題、10の重点目標、10の重点事業で構成されています。基本施策と現状と課題を受けて、個別施策と指標、現状、目標が設定されて、取組、実施事業が組み立てられています。実施事業は事業の方向性、概要、指標、現状、目標、所管課を記載しております。

重点施策ですが、2014年度から重点的に取り組む課題を重点課題として抽出していると。そういうことで、課題解決に向けた目標である重点目標と具体的に取り組む事業として重点事業を挙げております。この重点事業は、事業の概要、指標、現状、目標、目標達成時期、5年間の概算費用、スケジュール、年度ごとの費用、所管課を記載してございます。この重点事業ですが、大きく3つございます。これは目標ですが、1つ目は「生涯学習の一層の拡充」ということで、5つの重点事業が組み立てられています。2つ目は「図書館の利便性のさらなる拡充」ということで、3つの重点事業が組み立てられています。3つ目が「文化資源の一層の活用」ということで、2つの重点事業が組み立てられています。

計画の進捗管理ということで中間確認と総括ということがあって、中間確認は計画の第2年度終了後に行って、どのように行うかはわかりませんが、その結果を次年度以降の取組みに生かすと。総括は計画第4年度後に行って、結果を公表するとされています。

感想という感想ではないのですが、施策体系は教育プランにもとづいて、まず基本プランと重点プランの施策内容を具現化するために、基本目標から大項目、中項目、小項目、事業へとわかりやすく整理されているのではないかと。実施事業と重点事業にかかわる情報が具体的であって簡潔であるということで、市民目線の公開方法であると感じました。最後ですが、新たな教育プランにもとづく生涯学習施策を計画的、着実に展開するためのアクションプランであるということで、それぞれが同一期間での計画となっていると。その中で町田市が本気というのはあまり気にされても困ることなのですが、具体的に予算を示していたり、数値目標を挙げていることが好感を持てると感じました。以上です。

それでは続いて、稲城市でよろしいでしょうか。川廷委員は今日はお休みですので。

事務局 はい。では事務局から説明させていただきます。17ページ目になります。

稲城市ですが、まず計画の特徴としまして、1つ目の・で経過としまして、今回は3次目の計画であります。

2つ目の・としまして、計画の範囲は市の生涯学習に関連する事業すべてを対象としていると。

3つ目が、基本理念としては、自己実現、共生、稲城らしさの3つをキーワードにしていると。今回の第3次計画では、「いかしあい・はぐくみあい・にないあいの絆づくり」をコンセプトとしていまして、その中で「にないあい」を重点的に取り組むと。「にないあい」とは市民同士のネットワークや

市民と行政とのパートナーシップなどの連携・協働を進めることによって、生涯学習のまちづくりを互いに担い合っていくことを意味すると。その「にないあい」の重点プロジェクトとしまして、1、にないあいシステムの充実、2、にないあい人養成プロジェクトの推進、3、にないあい支援基地づくりの推進を挙げていると。

次としまして、施策の体系では5つ掲げていまして、1つ目が生涯学習の基礎期間の充実、2つ目が多様な学習機会の充実、3つ目が市民同士の交流機会の充実、4つ目が市民参画を軸とした生涯学習の支援、5つ目が市民の生涯学習活動の支援体制の整備を体系として挙げています。

最後の・ですが、推進事業の一覧では、市が行っている事業は細かくピックアップされているのですが、市以外が行っている事業については大項目の記載にとどまっていると。

感想は、そのまま読ませていただきますが、1次・2次計画を踏まえての計画であるので、その総括と生涯学習の基本理念等にかかなりページを割いている。基本理念、基本コンセプト、基本的方向性、重点プロジェクト等の考え方の部分に力が注がれていて、具体的な施策までが遠く、計画がわかりにくくなっているように感じた。計画はもっとシンプルな形にしたほうがよいように思いました。最後が、施策の体系（施策目標）は武蔵野市（基本目標）とかなり似た体系となっている。

以上になります。

柳田議長 ありがとうございます。

それでは高坂委員、よろしく申し上げます。

高坂委員 私は稲城市で、今、川廷委員がおっしゃったことと大体同じような感想を持ちました。

特徴でまとめたのは、自分もあまりこういうものを見たことがなかったので、どんな構成になっているのかなということで見てみました。そのときに、あえて、この3市でないところの東大和市を見て、どうなのかなと比べてみたのですが、それを見てびっくりしたのは、東大和市は全ページで33ページぐらいなのですね。稲城市がスタンダードではないなのというのがすぐわかりました。そこから出発しました。これはすごいページ数だなと思って。それはよくよく考えてみると、川廷さんが気になっているように、第1次、第2次と改訂をやってきて、ここに至っているのだということをもた改めてそこでわかって、非常にページ数も多くて重厚長大な印象を持ちました。

東大和と比べてみて構成は大体同じだなとわかりました。生涯学習はどういったものなのかということ、計画策定の目的といい、先ほども出た背景みたいなもの。それから、本市の現状と課題、そして基本理念、これまでの施策の整理、今後の方向性と。この稲城市の場合は、特徴的なのですが、長く先行して実施・作成したので、第1次から推進してみて、またそれをどう変えてきたかということから入っていました。それから、システム上の事柄、これも後から感想が出てきますが、これについてすごくページ数を割いていました。それから最後に、新しい施策ということでした。そして7番目には、進行管理と評価という事柄が出ていましたが、先ほどの坂上さんのおっしゃったことにも僕は非常に同感な感じがしています。

ページ数は130ページに及ぶものと33ページと違うのですが、その構成の割合はどうなのかなということで、パーセントをとってみたら、おおよそ似かよっていますね。ただ、川廷さんがおっしゃったように、基本理念のところ非常に大きなページ数を割いていることは、これは長期にわた

ってすごく検討されて、ここに至ったのだなということがよくわかったということでした。

内容の面は、提出資料の四角数字がポイントということで、「当市の課題」「これまでの施策の整理と評価」及び「システム上のことがら一よりよく推進していくためにはどうしたらよいか」というところにすごく紙面を割いていると。そして先ほど申し上げましたように先行実施して、第1次、第2次とやってみて、そしてまた新たに入れる課題をどうすべきかという検証を進めながらやっていることについてはとてもすばらしいと思いました。

その次が、進行管理や評価、微に入り細を穿つような目標設定の指標などが用意されていることもすごく特徴だなと。最後にちゃんと項目を起こして、プラン・ドゥ・シー・アクションというものを実施主体がやっていくのだということを引きちんと述べているところも特徴ではないかなと思いました。

それから、先ほどお話があったように「特徴的だ」、「非常に変わっている」と申し上げたように、標題やキャッチフレーズをすごく多用しているところが特徴だと思いました。標題もキャッチフレーズを先に、〇〇計画ではなくて、そちらを先に出していますし、途中でいろいろなわかりやすい言葉を多用していることがまた特徴ではないかなと思いました。東大和のものは本当にシンプルで、ほとんどそういうものがなくて、行政がつくっているものだなとよくわかるのですが、これはこれで僕は、こっちでお腹いっぱいになっちゃって、こっちを見ると、すごく好感が持てて、すごいシンプルでわかりやすくいいなと思いましたね。

それから、最後の段落です。では、具体的にどんなものか、「にないあい」という言葉を多く使っていますが、本当に独自性があるのかといたら、それほどでもないのではないかなと。国立市でも、もう既に取り組んでいることなのかなということを感じましたし、いかに既存の制度や方向性をうまく進行し、総合的に機能するかについて改善工夫をしていくことにすごく腐心をしていたなと思いました。

改めて、そのシステム上のことがすごく多いなということを感じました。18から20期の共通の課題を先行にやっていただいた国立のものを見ましたら、7つの項目のうち6つまでがシステム上のことなのですね。どうやったらうまく総合化して進行させていくかということが出ていたので、やはりそういうことがすごく大事なのだなということを感じました。国立市の課題の中で、それ以外の、システムをうまくやっていくため以外のものは人材の発掘・育成と新たな学習機会の提供、社会教育施設・設備の拡充、それ以外はどうやってうまく進めていくかということなので、やはり課題はかなり共通性があるのだなということを感じました。

それで全体を眺めてみてなのですが、お腹いっぱいと言いましたが、非常に量がすごくて、これを国立市でつくらなければならないのかと。このようなものをつくらなければならないかと思うと非常に大変だなと。僕たちがつくるのではなくて、提案した後、事務局さんでやるので、このように稲城市のようにつくるのはとても大変なのではないかなと思いました。だから、生涯学習についてとか、一般的な現状分析、一般的に国立市ではない全体の分析などは比較的簡単に、東大和市などを参考にやったほうがいいのではないかなと思いました。あまりにもページ数が多くて。

それから2)なのですが、それに先立つ事柄かもしれないのですが、生涯学習というものは、これまでもここでいろいろ論議されていますが、非常に広範囲なので、あまりにも全部に網羅的にしてしまうと、それに1つずつ対策とかやっていくのは、あまりよくないのではないかなと。焦点化してやっていったほうがいいのではないかなと。これまでの中では、武蔵野市、町田

市はある程度焦点化しているのは先ほど発表されていましたが、あまりにも全部のことをやろうとすると実現ができなくなってしまうのではないかなと思いました。

また、キャッチコピー的な言葉なのですが、それが効果的にポイント、ポイントで入っていればいいのですが、何層にもなっていて逆にわかりづらくなっている。川廷さんがおっしゃっていたわかりづらいというのは、そういうこともあると思うのですが、キャッチコピーが重なっていて理解がしづらくなっているので、そういうのを使うのであれば、ポイントを絞ってやってシンプルにやっていったほうがいいのかなという気がしました。あまりにも次々にそういう言葉が出てくるので、それとの関連性、上の項目と下の項目という階層の関連性などもあやふやになっているような気がいたしました。

4) は、やはりシステムの構築、うまく動かしていくためにはどうしたらいいのかということがすごく課題なのだということだと思います。

5) なのですが、今先ほど言ったのと同じように、これもこれもこれもとやらないで、国立市としてどうなのかと焦点化して、その期間の中で実現可能なものにポイントを絞ってやっていったほうがいいのではないかなと思いました。

最後は評価なのですが、いろいろなことを考えに入れてやることも大事だとは思いますが、あまりにも……。例えば市民の自主的な活動を醸成していくということをどう評価していくのかは逆にすごく難しいし、だれが責任をとって、だれの目標にしていくのかもすごく難しいことなので、もう少し緩やかな感じでやったほうがいいのかなと。行政の方たち、実際に携わっている方たちの責任になってしまうのか、市民の方たちで率先してやっている人がすごく頑張っていて、いろいろなことをやろうと思ったけれども、人が集まらなかったと。それは評価が低いのかとか、そういうことになってしまうので、もう少し緩やかな感じでやったほうがいいのかなと思いました。そんなことを思いました。

柳田議長 ありがとうございます。

それでは太田委員、よろしくお願いします。

太田副議長 非常に簡単な資料になってしまって恐縮ですが、特に目についたところを中心に書きました。

もう既に皆様が指摘されていることですが、稲城市は非常に早い段階で、この計画を策定していて、20年近くにわたる歴史があるというのが、おそらく最大の特徴で、事務局がここを選ばれたのもそういうところを見ておこうという意図があったのだらうと思われまます。なので、最初から、こんな計画をつくるのは到底無理だと思いながら読みました。既に1次計画、2次計画を経て3次計画を策定したということなので、さまざまな課題も浮かび上がっていて、それを踏まえて第3次計画を作成されたことが非常に詳しく丁寧に書かれていました。

特徴的だと思いましたがのは作成のプロセスなのですが、93年の時点で策定委員会が発足して、ほかの市でも策定委員会を立ち上げてつくってきたわけですが、市民委員がここに参加してしまっていて、いろいろな分野から、教育、スポーツ、農業、福祉、企業の各分野から市民が選出されて、93年に策定委員会が発足と。2年間の議論を経て、95年に提言を出しているということです。その時点で「自己実現、共生、稲城らしさ」という3つの理念がもう既に出されていたと。そういうことで非常に早かったことと生涯学習を非常に幅広くとらえようという努力が、この策定委員会の発足のプロセスで見

られたところですが、それから、市民意識調査、これはほかの市でもやっていますが、あるいは市民フォーラム、パブリックコメントなど、さまざまなツールを使って、市民の意見を確認してきたという歴史もあるのだということがわかりました。

それから2点目ですが、第4次稲城市長期総合計画の分野別個別計画として、この生涯学習推進計画が位置づけられていることが明記されています。それで市の生涯学習関連事業すべてを対象とする計画であることと、ほかのさまざまな計画との整合性に配慮してつくったことが明記されていました。連携が重視されているということです。この整合性に配慮するのは多分、実際にやろうとする結構面倒なことで、各計画の策定期間がそれぞれずれていたりですとか、今、進行中の計画にどのようにかみ合わせるのかみたいなことがいろいろ難しいのではないかと思うのですが、ここをおろそかにするわけにはいかないと思うので、国立市で考えていく場合にも気をつけたいところだなと思います。

それから、この計画が何を目的とするものなのか。ほかの武蔵野市、町田市と比べてもみたのですが、稲城市の場合は、市が市民の生涯学習を支援するために環境を整備することを目的としていることを明記しているわけです。通常、こういう目的を設定するのは、これが一般的なのだらうと思うのですが、例えば武蔵野市の場合は、生涯学習施策を総合的に推進することが、この計画の目的であると書かれていますし、町田市はまた違ったこと、似たようなことを違った表現で書かれていると思うのですが、これも町田市教育委員会の施策をさらに充実させていくために策定したと書かれています。これは書いていないのですが、市の事業を見通しよくするためにつくられた計画なのか、あるいは市民の利便性を高めるための計画なのかという違いがここにあらわれていて、突き詰めていくと同じことを指していたりもするのだらうとは思いますが、その辺の言葉の使い方がほかとは違うなと思いました。

それから内容についても簡単にまとめてみたのですが、これについてはあまり詳しくなくてもよくないので、特に読み上げたりはしないのですが、ぱっと見て、非常に詳しいわけです。ある意味では詳し過ぎると言ってもいいかもしれないのですが、先ほど倉持委員が生涯学習テキストのような内容ということもおっしゃっていましたが、おそらくこれはテキストなのだろうと私も思いました。市民向けのテキストではなくて、市の職員向けのテキストなのだろうと。これだけ分厚い計画を20年にもわたってずっとつくってやってきたことは稲城市が生涯学習の推進に相当力を入れていることのあらわれだろうと思うのですが、市全体、職員全体に生涯学習とはこういうものであって、こういうところに重点を置いて推進しなければいけないということをきちんと理解してもらうためのテキストとして非常に優良なものになっているのではないかなと思います。なので、先ほどもご意見がありましたように、市民にとっては、このボリュームがとっつきづらいものになってしまうので、もう少しシンプルのほうが良いという意見もあろうかと思うのですが、ただ、どんなにシンプルであっても市民はおそらく見ない、読まないですね、計画というものを。その計画に合わせて自分の生涯学習の進め方を考えようという人はまずいないと思うのです。なので、シンプルにして市民へのわかりやすさを追求するのか、あるいは国立市のいろいろな取組みを生涯学習に資するものとして再編成しようとするものなのか、そこら辺の目的を確認して先に進めるのがいいのかなと思います。

簡単に感想を書きましたが、言いたいことは先ほども言ったことの繰り返しのようですが、作成のプロセスに非常に手間をかけているのが稲城市の特徴

だろうと思うので、国立市でも今後、社会教育委員の会では基本的なところの議論をこれから進めていくわけですが、その先、どういうプロセスで国立市がその計画を策定しようとするのかということも見通して、この社会教育委員会の役割もきちんと確定させないといけないのではないかなと思います。この会で各市がつくっているような詳細な計画のすべてをつくれるわけではないですし、そういうことが求められているわけでもないと思いますので、策定プロセスのどの部分にどのようにかかわるのかということですね。それを確認できればと感想として思いました。以上です。

柳田議長 ありがとうございます。

以上ですべての委員の方々から発表をいただきました。全体を通して自由に何かご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。それぞれの市は非常に特徴的なもので、よいと思われる部分、少しそうではないのかなと思われる部分と、いろいろご意見、ご感想をいただいておりますが、委員の皆様方からいかがでしょうか。今後、国立市の生涯学習計画についての議論を進めていく上で、どうぞ何なりとご発言をお願いいたします。

太田副議長 よろしいでしょうか。ちょっと気になったのですが、生涯学習の定義をどの市でも最初に詳しく説明をされているのですが、この計画の対象をどのあたりに絞るのか。武蔵野市なんかはわりとわかりやすく対象を絞っているところだろうと思うのですが、気になるのは生涯学習なのか、生涯教育なのかということとして、例えば武蔵野市のように社会教育、家庭教育、学校教育、民間による教育活動というものが、この計画上の生涯学習の対象ですと定める場合、教育の範囲は定めているけれども、必ずしも市民の生涯学習として定めているわけではなくて、学習機会の提供者を絞っていると。そういうことですね。こういった提供者によって提供される学習機会を利用するところにまで、おそらく生涯学習の範囲を絞っているということなのだろうと思うのですが、でも一方で、市民の生涯学習に関する意識調査では非常に幅広く聞いていたりするわけです。例えば武蔵野市は、85ページに市民調査の報告書の概要があるのですが、とてもいいなと思ったのは、生涯学習のイメージについて聞いているんですね。市民の皆様には生涯学習という言葉聞いて、どういうことをイメージするのかという設問なのだろうと思うのですが、ここでは必ずしも市や学校やその他民間の機関が提供する学習機会に参加することばかりではない、いろいろなイメージがここでは出されているので、こういうイメージの大部分を括弧に入れて、この市の計画はこの部分だけを取り出しますみたいな構造になっているような気がするのです。はたしてこれでいいのかというのが疑問なのですが。なので、身も蓋もない言い方をしてしまうと、生涯学習という言葉を使わないほうがいいのではないかなとも思うのです。これだけ幅広いイメージで、市がかかわれる、支援できる部分は限られているわけですから、それを生涯学習の計画と書かれるのはちょっと誤解を招きやすいのではないかなと。これは国立市の計画がどうかという話ではなくて、行政が生涯学習の推進を計画化することにまつわる問題だろうと思うのですが。前々回か、その前あたりに意見として申し上げましたように、生涯学習をどのような意味内容でもって使っていくのかということに、これはすごくかかわる問題だと思うので、せっかくこの3つの市の計画を見る機会ができましたので、そこについての議論ができればと思います。

柳田議長 ありがとうございます。今、太田先生から、生涯学習の定義、あるいは

は対象、その言葉を使わないほうがいいのではないかとご提案がございましたが、この会として、このところをどのようにしていくのかについて何かご意見等はございますか。

高坂委員 今おっしゃったことに同感ですね。何から何までと。僕は稲城市をはじめ見たので、これをやらなければならないのかなとなったら大変なことだなと。何か何まで網羅的にやっていたらいい。それは根本から掘り下げてということで、すごくご苦労があって、これをつくられたのだと思うし、それに向けて努力されていると思うのだけれども、すべてをやるのは絶対的に無理だし、そのところを、さっきから僕もお話をしたのですが、焦点化して、実現可能などころに向かって行けるような計画立てをしたほうがいいのではないかと。言葉で生涯学習を使ってしまうと、何かこちらでつくっていただいた全体像を見る図もお示しいただいたものを見ると、全部が網羅されてしまうので、そうすると、それにこれから取りかかってやっていくのは大変なので、それにかわる言葉は何なのかというのは僕はまだ浮かんでこないのだけれども、国立市として、こういうふうにやっていくことを示すときには、もう少し焦点化というか、できることをやって、それからやっていったほうが良いような気がします。もちろん本源的な定義とか、そういうものはちゃんと押さえながら、でも、国立市では、こういうことで進めていきますということをやったほうが良いなと思います。

柳田議長 ありがとうございます。今、実現可能などころに向かって行けるように、そこに絞ったほうがいいのではないかと。さらに国立市としてということでしたが、何かほかにご意見等はございますか。

倉持委員 どういうことを選ぶかということだと思うのですが、実現可能性だとか、具体的な事業だとか、あるいは行政が携わるところに焦点を当てた計画づくりとすると、例えば今回で言うと、町田市なんかは明確に教育委員会の役割を整理したり、あるいは教育委員会が主体となる事業に関する位置づけをするという意味で、もともとは公民館だったのですが、生涯学習部事業と図書館と資料館・博物館的な部分を位置づけた計画と。範囲としては多分、社会教育の範囲でつくられているのに近いのが町田かなという感じです。稲城とか武蔵野市は、生涯学習という理念は、先ほど先生がおっしゃったように教育という部分だけではなくて、自発的な部分だったり、やや無意図的な部分だったり、組織的にやるのだけれども、教育講座とやっている部分だけではない部分にも広げてと。行政の内部では環境だったり、人権問題だったり、教育委員会の中だけではない青少年だったり、高齢者の福祉だったり、いろいろところで学習的なことは行われているので、そういうものをちゃんと傘をかぶせて、生涯学習というところで横につなぎましょうということで、多様性を担保するというか、あるいはその辺も含めて浅く広く支援すると。そういうところで行くかということでは違いが出てくるのだろうなと思うのです。

どっちを選ぶかですが、市民の生涯学習活動はさらに豊かに行われていると思うので、市民は市民で多様にやっている自主活動や生涯学習活動があり、今回の計画の中では、ここからここまでと。どっちがいいのですかね。クリアにして、責任の所在をはっきりさせるということもあるかもしれないし、いや、どんどん豊かにやる場所も含めて見えていますよみたいな感じにするのか。皆様がやっていることは生涯学習ですよ、生涯学習とは思っていないかもしれませんが、それも生涯学習ではないですかとエンパワーメントするよ

うな部分も計画ということで位置づけていくのか。どういう方向性がいいかということですよ。

すみません。発言したら、自分でも話しながら考えていくところがあって、うまく整理できないのですが。

太田副議長 もう一つつけ加えると、市民活動とか、地域づくりというものをどこまで視野に入れていくのかということだろうと思うのです。国立は特に市民活動が盛んな地域なので、そこを抜きにすることは難しいと思うのですよ。ですが、そこを生涯学習計画の対象に含めしまうと、自発的にやっている活動にやや横からブレーキをかけるというか、大きなお節介だとはとられかねないようなことにもなるかもしれず、ちょっと難しいところだろうと思います。まちづくり、地域づくりという言葉はそうでもないのですが、市民活動という言葉でそれを説明すると、やや政治的な色合いも帯びてきますし、実際にやっている活動の中にはそういうものもたくさん含まれてきますので、それは従来の社会教育の考え方では網羅しきれない。そこに行政の立ち位置の難しさがあると思うのですが。

倉持委員 今のを伺っても、社会教育とか生涯学習の考え方自体も、この会議でも、最近の国の方針の傾向みたいな講義を受けたようなこともあるのですが、ここでも出てきていますが、学んだ成果の還元とか活用とか、知の循環型社会とかとって、学ぶことと活動することをなるべくつなげていこうとか、あるいは地域づくりとか、まちづくりということと生涯学習をつなげていこうとか、個人のニーズと社会の要請を、地域課題や社会課題というところと学びをつなげていこうと、やや自前主義から脱却しようみたいな方向性はあるので、そういう観点で言うと、ほかのいろいろな課題や窓口とか活動とか主体とつながっていくことは指向されつつあると思うのです。ただ、計画がそこまでを範囲に含むかどうかは別として、押さえとしてはきっとあるのだと思うのですが。つまり小さな教育委員会の事業、講座だけの枠組みにはまっているのではないですよ、いろいろな団体ともネットワークをしますし、いろいろな地域課題・社会課題ともつながっていきますよという前提はきっとあるのだと思うのですが、計画の中身そのものにそれをどれぐらい入れるかは、おっしゃるとおりなのかなと思います。

柳田議長 ありがとうございます。どうぞ。

田中委員 今の市民活動という言葉なのですが、市民活動という言葉も生涯学習と同じぐらい広くて、今、いろいろな市民運動的な意味で誤解されたり、偏見を持たれるところもあるのですが、いわゆる本当に歌を歌うとか、万葉集を学ぶとか、サークル活動が全部、市民活動なのですね。ですから、そこもどうリンクさせるかはすごく議論する必要がある、倉持先生がおっしゃったようにあると思うのですが。自分が自分のためだけに何かを学ぶのではなくて、それが人とつながる手段であったり、そのツールである学習行為は何のための学習かということを考えていくみたいな提案はしたいなという気がしています。だから、全部を網羅する必要は全然ないけれども、国立で今必要とされている学習権であるとか、孤立しないで暮らしていくため、地域のコミュニティの一員として、ちゃんと生きていくことができるための学習であるとかということからすると、市民活動の発展は外せないなと私は思うのです。

全部は網羅しないことには賛成ですね。ただ、生涯学習という言葉はどうするかということで、この計画をつくることは、さっき太田先生がおっしゃ

ったように、市の職員向けというのですが、今、市がやっている施策の再編に対する提案であるとするならば、生涯学習という言葉は、こういう意味合いで使うという提案にすることはできるのではないかなど。私たちがやっているような生涯学習とは何かということではなくて、ここで、国立で使う生涯学習というのは、こういう意味合いで施策の中に位置づけてほしいという提案はできるのかなど。生涯学習という言葉の使い方、アプローチの仕方というか、そういう意味で使っていくことはできるのではないかなどと思って聞いていました。

柳田議長 ありがとうございます。そのほかに何かご発言はございますか。

非常に重要な議論が行われていると思いますが、生涯学習はどこまで担当するかとか、どこに向かって行くのかということもあるのですが、どこまでをここで提案していくのか、意見を入れていくのかということになります。本日欠席されている委員の方々もそれぞれの立場からご意見等があると思いますが、いかがでしょうか。具体的にどのようにとなりますとまだまだ議論が必要かと思えますし、できれば口頭だけではなくてメモ等をご用意していただいて、それぞれ考え方をここで発表して共有して、この会として同じ方向に向かって行く必要があるのかなどと思っております。

倉持委員 今日、皆様のまとめを見て、それこそ私も、こういう計画を立てるにあたって、範囲みたいなこととかの立て方もとても大事ですが、一方で、その市らしさみたいなところがどこに出るのかは非常に重要なのではないかと、皆様のご意見を伺いながら感じたのですが。

例えば今日のキーワードが、ご欠席ですが、黒田委員からあったし、先ほども孤立だとか、一人家庭だとか、そういう高齢化少子化の問題なんかも、この会議でも何度か議論に出ていましたし、例えば中野委員から青少年なんかも大事なのではないかとかというお話があったりとか、あるいは活発な市民活動だったり、公民館活動が行われていることだったり、逆にあまり施設がないみたいなことも課題として挙げられたりしていましたが、どの辺を皆様が、らしさとか、課題とか、あるいはこれを挙げたいと思われるのかななんていうのを、すぐにというわけではないのですが、この会議の中で伺ってみたいなどは感じました。

柳田議長 これまでの会議の中で、倉持先生がおっしゃったことは幾度となく出ていたかなと思います。ですから、会として、この計画に向けてということで、さまざまな基本施策や、重点事業となって行くことの提案ということで出していくわけですので、もちろん委員の皆様方がお考えのことでもそうですし、最終的には、前回の会議でも出されていたと思いますが、ここで議論したことを市民の多くの方々に聞いてはどうかということが、多くの委員の皆様方から、そのような意見が出ていたかと議事録で読ませていただいております。そうしますと、市民の方々が求めているものがまた出てくるかと思えますし、どのような段階で公表するかということになってはいくかとは思うのですね。またスケジュール的なものももう一度考えていかなければいけないということと、そういうことも含めて、次回にはまた、スケジュールを変更する可能性もあるのではないかなどは考えておりますが、その辺も含めていかがでしょうか。

倉持委員 何度もすみません。前回お休みをしてしまったので、議論をちゃんと把握してなくてすみませんでした。

アンケートをとるという方法もいろいろな市でやられているのですが、大体、国とやっている調査とあまり変わらない結果が出るので、独自のアンケート項目を立てないと、あまりユニークな結果は出ないというのが何市かやってみて感じていることなのですが。

今までやっていたやり方としては、主な活動団体にヒアリングに行くことはやったことがありまして、例えば行政の委託をしている組織だと図書館協議会とか、公運審とかがもちろんアクセスしやすいと思うのですが、市内で活動されている生涯学習関係だけではなくて、例えば福祉の団体とか、それは皆様で、どういうところに聞きたいかということもあるのですが、生涯学習・社会教育をやっている団体にスポットで聞きたいのか、周辺のスポーツ団体とか、福祉とか、まちづくりとか、いろいろな団体に聞きたいかということもあるのですが、実態から何か考えていくというのだったら、ヒアリングはいいので、手分けして、事務局と委員と団体さんの会合をやるところに出向いて行って聞くとか、あるいはここに来てもらって聞くというのがとても有効だった記憶があります。

あとは、そういう団体さんにアンケートを広く浅くというよりは、そういう活動をしている団体さんにアンケートというやり方もしたことがあって、それはそれで、すごく参考になったという記憶があります。

柳田議長 ありがとうございます。

アンケート調査につきましても、最初の会議でしたでしょうか、国のやるものは少しわかりづらいということが出ていて、できれば独自のアンケートを作成したほうがいいのではないかとということもございましたが、アンケート調査になりますと、やはり予算的なものがあると思いますので、今すぐということはおそらくできないのかなと思うのですが、その辺、もしそのような形になったときには、アンケート調査は可能になりますかね。

事務局 来年度予算はこれから編成しますので、予算として認められる、認められないは正直、あるのですが、来年度予算で要望していったら、アンケートをとるのは予算が認められれば可能となってきます。あとヒアリングという話ですと、お金はかかりませんので、やろうと思えば今年度中からできるのかなと思います。

柳田議長 ありがとうございます。何か？

田中委員 来年度では遅いのではないかなと思っただけです。2年の間にまとめなければいけないのに来年にアンケートをとっていたら、それから課題を抽出してなんて、ちょっと遅くないでしょうか。

中野委員 アンケートの話から少し前に戻ってしまっただけなのですが、社会教育関係にするのか、生涯学習というふうに範囲を広くするのかというところで、年代によって必要とする教育は変わってくると思うのですね。例えば幼児が必要としているものと、極端な話、高齢者が必要としているものは全く違うわけですから。学校教育を受ける子どもたちにあっても、学校教育というものは全く除外視しても、プライベートな時間でこういった教育支援ができるのかは全く別問題だと思うのですね。今、アンケートをと言われているのは、そういう年代の方はある種、1つの年代層がかたまっていると思うのですね。社会に出て活躍されている年代層ですので。そうすると高齢者であったり、子どもたちという範疇ではないところのアンケートということ

になりますよね。ですから、各年代で、生涯教育という考え方からして、どういった教育支援を必要としているのかがポイントになるような気がしているのですが。

柳田議長 ありがとうございます。そうすると、委員の皆様方が動いて、そういう場所に行って、いろいろご意見、要望等ということではないですが、いろいろとお話を聞くことも、もしかしたら必要なのかもしれないとなりますが。

高坂委員 今、中野さんのお話を聞いていて思ったのですが、要望を抽出していくのはいいのだけれども、やはり先ほどから出ているように、ただ行って、どんなことですかと聞くと、ただこういうことをしてほしいということしか出てこないような気がするのですね。ですから、例えば先ほどから言っている、国立市では社会教育委員として、こういうふうに考えていると。生涯学習については、このような範囲で、こんなふうに進めようと思っていると。そして独自性はこんなところを考えているのだと。ある程度のことを示して、その示し方はなかなか難しいのだけれども、そういうものを見せておいて意見を聞いたほうがいいような気がするのですが。

ただ社会教育といっても、僕もわからなかったけれども、社会教育の何たるか、神髓のところはまだわかっていないのかもしれないのだけれども、そういう中で聞いても、こういう施設をつくってくれとか、こういうふうにしてくれということしか出てこないのかなど。あるいは、どう意見を言っているのかがわからないのではないかなど思うのですね。少なくとも、今、社会教育委員でこういうことを考えていて、こういうものをつくらなければと、そういう意見を言わなければならないと。いろいろ学んだところによると、生涯学習とは、国立市では、こういうとらえ方をしていったほうがいいのかと。そして独自性としてはこんなものと。僕はそこが大事だと思うのですよ。国立市の現状に対してどうしていくかと。そこのところぐらいは大まかなところを示しておいて、意見を聞いたほうがいいような気がするのですがね。

その意見を聞くことは僕はすごくいいことだと思うのですよ。ただ、何でもなくで行って、生涯学習の理解がそれほど皆様がわかっているとはとても思えないのだけれども、中にはすごく考えている人もいると思うのですが、そういうやり方で出向いて行ってもいいし、あらかじめアナウンスをしておくというのか、あるいはリーフレットとかを少しつくって、中間的なものをつくって、アナウンスをしていくことはどうでしょうかね。この形は項目だって同じだと思うのですよ。そこにどれだけ国立市の独自性を出していけるか。独自性というか、よりよいものをですね。国立市に合ったものをつくっていくかという観点からすると、そういう抽出の仕方をしたほうが。ただ行っても、なかなか要求だけになってしまうような気がするのだけれどもね。そう思いました。

柳田議長 ありがとうございます。前回の会議で、意見聴取をする時期ということで、いろいろなご発言がございましたが、1つは素案ができた段階で、あるいは中間ということ。あと、この会議で大事な理念が確認できて、重要な課題が特定できた時期でと出ていました。まずは、その方向性として、多くご意見がございましたが、生涯学習という全般的なものではなくて、国立市ということで幾つかに絞ってという方向性になりかけているのですが。

高坂委員 すみません。本市の現状と課題は、これまでの18期から20期のもの

で十分だと思いますよ。これに少し加えて、これをほかのところも、こういったところをすごく載せているわけですね。稲城なんかも。これは、これを生かして、すばらしい報告というか提案なので、それでいいと思うのですよね。それにプラスアルファをすれば、国立市のこれまでの状況は。またそれに今、新たなものを少し、先ほどから出ているお話から加えれば、例えば子どもの貧困のこととか、放課後の子どもの居場所とかも含めて、そういうのも加えるにしても、もう十分だと思うのです。それを考えると、これでやってみて全体像は大体描けるようになったなと思うのですね。だから、それを見渡す中で効果的に、いろいろな方からの意見をとれたらいいなと思います。

柳田議長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

間瀬委員 絞るという言葉はどうとらえるかと思っているのですが、基本的に行政がやるのが中心になると思います。他団体とか、3セクとか、いろいろあるとは思いますが、ベースは行政が事業の主体だと思っています。役割としては、生涯学習の支援ということにはなると思うのですね。生涯学習は自発的な活動ですから、行政がやることはあくまでも支援という位置づけになると思います。

これまでの答申の中で出てきている現状分析にプラス、そこから出てきている課題に対して解決策を出していくのが重点施策と言われているようなものになると思うのですが、その重点施策以外の基本施策があると思うのです。その考え方は、原則としては、やはり学習権の保障だと考えていて。つまり、みんな、生涯学習ができる条件があるという前提ではなくて、その勉強をしようと思ってもできないという環境があったりとかというところを保障していくところは基本として押さえておかなければいけないと思うのです。普通に考えると、みんな、ゼロから自由に勉強できる状態になって、それを支援していくというイメージではなくて、そこにたどり着けない、マイナスからのスタートをしている人たちは国立であっても絶対にいると思うので、そこを支援していくという発想は絞れるものではないというか、常にどんな時代においても守っていかなければいけないものなのかなと思うので、そこは押さえたほうがいいのかという気も当然しています。

柳田議長 ありがとうございます。そのほかに何かございますか。

太田副議長 勝手に個人的に抱いているイメージなのですが、事業範囲を絞るというよりは、国立市としての生涯学習の考え方を確認した上で、それを教育委員会のやっている事業に限らず、いろいろなところに浸透させていくのが一つあり得るのではないかなと思っています。例えば、先ほどからもお話が出ているのですが、福祉的な事業に、いかに生涯学習の観点を盛り込めるのか。あるいは個々人がやる学習はいろいろな目的があり得るわけで、360度、いろいろな方向に学習の目的は向かい得るのですが、その中の一部が福祉的なところにかかわっていたりとか、あるいは私個人的には、働き方と物すごく深く深くかかわりを持つと思っているのですが、労働の領域ですよ。市民の働き方みたいなものを生涯学習の理念のもとで、どういうふういろいろな働き方を支援していけるのかを主として一つ、柱として持っていくのか。あるいは、まちづくりとは言わないですかね、いろいろな建築計画があると思うのですが、道路の計画ですとか、景観ですとか、そういったものについても、日々、そこに暮らしている人たちがそれを守るためにいろいろな活動をしてきたという経緯もあって、その活動の中にはすごくいろいろな学習も含

まれていただろうと思うのですが、例えばこれからどういう計画を市として立てていくのかというときに、市民が一人一人、自己実現を目指しつつ、よりよい生活を追求するという学習の基本的な、生涯学習の理念としてよく語られるようなことですが、そのところを基本に据えて、その計画の段階から市民の学習というものを重視すると。そういうように市のあらゆる事業にかかわるような生涯学習の基本理念みたいなものを計画の一部として提示するというやり方はあるのではないかと思います。

そうなると、教育委員会の中だけでどうにかなるものではなくて、先ほど稲城の計画を見る中で、いろいろな領域の関係者が策定委員会のメンバーとして入って、意見を言ったところはとてもいいのではないかという感想を申し上げたのですが、ここは社会教育委員の会なので、社会教育に関しては発言はできるかもしれないけれども、それ以外のところについては、詳しい方ももちろん中にはいらっしゃると思うのですが、なかなか発言が難しいと。けれども、いろいろな領域を貫く理念的なところに関しては、ここで練っていくことはできるのではないかなと思います。

柳田議長 ありがとうございます。

第五期基本構想というものが進行している最中ですね。

事務局 基本構想ですが、今日の事務局の感触としまして、素案として表に出てくるのは、今の予定では11月ごろになってしまいそうなのです。そういうところですので、早ければ、次の次の回で基本構想の素案についてなども見ていただくことはできるのかなと思っております。

柳田議長 ありがとうございます。

この会と同時進行で、いろいろな議論がされていますが、この会で議論している理念的なものが、基本構想の理念に結びついていくというか、少し影響を与えることもあったりするという話も聞いたりしますが、こちらで議論していることは、そちらに少し何かお話しされたりということはあるですか。もし少しずつ形になっていったときに。

事務局 基本計画の策定にあたって生涯学習の部分については、うちの部署はもちろん内容は見ていく立場にありますので、そういう面でかかわっていくことはあるのかなと思います。

柳田議長 ありがとうございます。そのほかに何かご発言はございますか。はい、どうぞ。

田中委員 先ほど太田さんがおっしゃったことと少し関係があるのですが、例えば福祉の施策のところ、社会的に自立が困難な若者がいたとします。そのまま放っておくと、何かの形で市が支援はするかもしれないけれども、いずれ生活困窮者になってしまう可能性もあるかもしれない。そういったときに、生涯学習的な支援がそこがあれば。お金の支援とか、隣人が何とかするというのではなくて、生涯学習的なサポート、それがとても有効的なサポートであれば、将来、市民の1人が生活困窮者になっていくのではなくて、ちゃんと社会的なコミュニティの一員として成長していくとか、経済的にも自立していくことができる。ちゃんとそこがリンクしていれば、市の施策のプラスになると思うのです。生涯学習といっちはあれですが、学習ということがいかに大事かということ、個人の自由に任せるのではなくて、そういうと

ころにニーズがあるという視点がすごく必要なのかなと思ったのです。公民館も実は自立支援事業をやっているのですが、そこに私どもも少しかかわろうとしているところなのですが、そこがもう少し体系的に、いろいろな担当課が、そこにちゃんとアプローチができていれば、その人を救えるだけではなくて、その人がちゃんと市民として、将来、地域に役立ってくれるような市民として成長していくこともできるという可能性を生むだろうなと思いました。

倉持委員 今の議論を伺っていて、間瀬さん、太田さんが今の田中さんののが加わって、最初の話に戻りますが、生涯学習の定義をすることが必要なのではなくて、例えば学習権を保障するのだとか、市民の自発的な学習をサポートするのだとか、あるいは自立的な市民を育てる、あるいは自立的に学ぶ力を育てるために学習は何ができるかを示すと。多分、コンセプトと呼ぶべきなのか、理念と言うべきなのか、どういう言葉で表現していいのかわからないのですが、その中身の部分を表現できると、それがどの範囲ということよりも意味を持つのだなと伺って思いました。これまで出てきたいろいろな議論の中にもう既にその芽があるような気がしたのですが、それを少し整理していくことが、今言った国立市らしい生涯学習計画のコンセプトのもととなるものになるのかなと感じました。とても勉強になりました、今の議論は。ありがとうございました。

柳田議長 ありがとうございました。そのほかに何かございますか。

そうしますと、もうそろそろ時間にもなりますが、次回予定されていたことは、今回のことを踏まえて委員発表となっていたのですが、先に委員発表をやってしまうか、今日の議論の中で出ました方向性というか、この会として向かって行くところは何にするかを委員の皆様方で考えたほうがいいのかというところですが。

間瀬委員 今言った次元の話は1つではないかもしれないのです。僕は武蔵野市を担当したところだと6つの基本目標がありみたいな形で。わりと理念は何とでも言えるような抽象的な、あまり役には立たないようなことだと思っていて、実のない標語みたいなところがあるわけですが、そうではなくて、今、実をあらわすようなところで大事していかなければいけない部分は多分、1個ではないと思っていたので、そこを5つか6つか8つなのか、数はわかりませんが、1個ではないのではないかなというだけ気になったので申し上げます。

柳田議長 ただ、少しこの点について今後議論を進める上でも重要なことになってくるかなと。この会としての方向を示すことになると思いますので、次回、もう一度、委員の方々から、またお考え等を出していただいて、ここでもう一度議論をしたほうがいいのかなと。先ほどから出ているように、それぞれの立場からということもあると思いますが、それで委員の皆様が同じ方向に向かって、どのような提案をしていったらいいのかと。体系等にまとめてという形になるのかなと思いますが、次回、また再度議論ということでもよろしいでしょうか。

そのために委員の皆様方から、お忙しいところを恐縮ですが、また宿題ということで、先ほどのように、こういうものがあるのではないかと、ここは絶対に押さえないということを、それぞれの立場から出していただいて、皆様で共有して、こういう方向性でいいのではないかと、ここにいき

いと思っておりますが、いかがでしょうか。

間瀬委員 そうですね。それが宿題はいいと思っているのです、私も。何かその書き方が、短い言葉と説明という形で、数は何個でもいいと思うのですが、ある程度はフォーマットがあったほうがいいのではないかと思いました。

柳田議長 では、フォーマットにつきましてはどうでしょうか。事務局と相談してということよろしいですか。

事務局 はい。

柳田議長 では、私と事務局の皆様と相談して、またメールで書式についてはお送りさせていただきます。
そろそろ時間となりましたが、次回ということになります。

事務局 次回は10月27日火曜日の7時からで、場所が前に戻りまして、3階の第3会議室になります。よろしく願いいたします。

柳田議長 そうしますと、次回の第6回は10月27日火曜日、また3階の会議室となります。
本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

— 了 —